

美浦村総合教育会議

平成30年11月27日 開議

1. 出席委員

委員長	中島	栄
委員	山崎	満男
〃	栗山	秀樹
〃	浅野	千晶
教育長	糸賀	正美

1. 本会議に職務のため出席した者

教育次長	中澤	眞一
指導室長	及川	和男
美浦幼稚園長	坂本	千寿子
大谷保育所長	保科	八千代
木原保育所長	永井	弘子
総務課長	山口	栄美
総務課主査	浅野	洋子

○山口課長

本日は、美浦村総合教育会議にご参加いただきましてありがとうございます。本日の会議の進行を務めさせていただきます総務課の山口と申します。よろしくお願いたします。ここで配付資料の確認をまずさせていただきますと思います。平成30年度美浦村総合教育会議次第、それと同じく総合教育会議の協議事項（1）美浦村立小中学校の外国語教育の充実についての資料を配付させていただいております。資料の不足等がございましたら、お手数ですがお知らせいただきますようお願い申し上げます。大丈夫でしょうか。

それとですね、開会前にひとつお願いをさせていただきますと思います。教育委員会事務局から、この会議終了後、教育委員会を開催する旨伺っております。この会議につきま

しては、3時前に閉じたいと考えておりますので、ご協力のほどよろしくお願ひしたいと思ひます。

それではただいまより平成30年度第1回美浦村総合教育会議を開会させていただきます。本会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4第6項に基づき、公開で行わせていただきます。なお、会議録を作成する都合上、マイクを使用しての会議とさせていただきますのでよろしくお願ひいたします。

それでは初めに、中島村長よりご挨拶をお願ひいたします。

○中島村長

はい、皆さんこんにちは。

平成30年度的美浦村総合教育会議ということで、教育委員の皆さん、そしてまた、学校、幼稚園、保育所の各担当の皆さん、美浦村の教育に関しましてですね、常日ごろより、予算いろんな視点で、ご意見等いただきながら、美浦村の教育を進めるに当たって、ご支援ご協力をいただいておりますことに改めて感謝を申し上げます。

先ほど総務課長がですね、事務局としての流れの説明がございました。3時までということでございますので、1時間半ということになろうかと思ひます。

さて、本日の主な協議事項となっております外国語教育の充実についてであります、国の学習指導要領の見直しで、義務教育課程での英語教育が大きく変わろうとしておりますが、そうした中で、31年度から実施をするということで、指導者についてはですね、次長ともちょっと相談したのですけれども、来年度どのような、予算的な部分もありますので、その辺を今日の総合教育会議の中で、美浦村の立つ位置も。茨城県は31年度から導入をするということでございますので、全国よりも1年前倒し、というような報告を受けております。もう来年の予算の編成に来ておりますので、その辺も含めて、これは国が32年度にはもう実施をしていくということでございますので、いろいろと、ALTですか、そういう先生方の配置または新たに雇用も含めて、どの方向性でまず美浦としての取り組みをしていくかということも、皆さんと協議の上ですね、来年の4月からの確立に向けて協議をしていきたいというふうに思っております。

教育委員の皆さんには、美浦村だけじゃなくてですね、他市町のいろんな取り組み、一番茨城県で進んでるといふのは、境町が一番進んでおります。今、小学校かな、毎日放課後には、フィリピンの先生を雇用して、結構年間の教育予算もかなり、1億ぐらいつけているのかな。そこと一緒に比較はなかなか難しいんですけども、県南そして茨城の中で遅れをとらないような、配置をしていかなければならないのかなというふうに考えておりますので、教育委員の皆さん、また現場を預かる及川先生のほうも含めて、いろんな意見をいただきながら美浦村の方向性を考えていきたいと思ひますので、よろしくお願ひをいたします。

○山口課長

続きまして、糸賀教育長、お願いします。

○糸賀教育長

はい。本日は総合教育会議ということで、お集まりをいただきましてありがとうございます。私も今回で3回目、こちらの会議に出席をさせていただくこととなりました。定例教育委員会の中では議論をいろいろしているところではありますが、今回は財政の関係、あるいはそういった村としての、権限を持ってらっしゃる村長にも出席いただいて、美浦村の子どもたちにとって、どういった教育をやっていったらいいかというところ、今日は特にこの外国語教育をテーマとして、協議をいただくことになっておりますので、いろいろ忌憚のないご意見をいただければと思います。本日はよろしく願いいたします。

○山口課長

本年度第1回目の会議でございますので、教育委員の皆様にも一言ずつご挨拶をいただければと思います。よろしく願いいたします。

○山崎委員

今日は第1回の総合教育会議ということで、中身が小中学校の外国語教育というようなことで、多分美浦村は今まで私の認識としては、他市町村より進んでいると、ALTの配置も多いというような感じしております。多分、幼稚園そして保育園もやっていると思うのですが、小学校中学校ということで、それぞれ、何て言うんですか、生の英語といいますか、それに触れる機会が多くて、子どもたちも好んでというか、積極的にALTと接しているというような印象を持っていますので、より深くなるように、そしてこのような教育ができますように、ここの中で話し合いがうまくいけばいいなと思っております。以上です。

○浅野委員

今日は。今日のテーマが小中学校の外国語教育ということで、今、山崎先生もおっしゃったように、美浦村では幼保小中と、中身で連携しているいろんな事業が、読書推進とかもそうですし、社会力とかもそうなので、そういった教育がとつてもきめ細かくできているんじゃないかなと思っておりますが、さらにこれが実効性のあるものになっていくように、いろいろ話し合いをしたいと思っております。よろしく願いいたします。

○栗山委員

教育委員の栗山です。本日はどうぞよろしく願いいたします。先週、木原小学校の城山ま

つりがありまして、キッズカンパニーに保護者という立場から参加させていただいて、4年生の発表の中であった、毎年ありますが、美浦村の未来を考えるプログラムっていうプレゼンテーションがありまして、非常によく練られた、いろんな施策であったり、また案があったのですが、そういった中で、美浦村自体も少子高齢化の中でこれからいろいろ変革の時期に、岐路に立っているのかなと思いますので、これから10年後20年後を見据えた美浦村の教育のあり方に取り組んでいるように、皆さんと一緒に考えていきたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

○山口課長

ありがとうございました。

次に、事務局をご紹介させていただきたいと思います。教育委員会の事務局につきましては、皆様ご存じかと思いますが、割愛をさせていただきたいと思います。総務課の職員をご紹介させていただきます。始めに総務課の浅野主査です。そして私総務課長の山口と申します。よろしく願いいたします。この会の会議録をつくりますので、マイクのスイッチを入れてお願いしたいと思いますので、よろしく願いいたします。

それでは、次第3の協議に入らせていただきます。進行につきましては、美浦村総合教育会議運営要綱に基づき村長に会議の議長となっただき、進めさせていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

○中島村長

はい。それでは早速協議に入りたいと思います。まず、協議事項(1)の美浦村立小中学校の外国語教育の充実について、中澤次長のほうからご説明いただきたいと思います。

○中澤次長

はい。それではまず先に、会議の準備とか資料等におきまして、随分不手際がございました。申し訳ございませんでした。また間に合わず会議資料にページ、資料ナンバーを振っておりません。重ねて申し訳ございませんでした。

それでは事務局の私の方より別添資料について説明したいと思います。まず先に資料につきましては、次世代の学校指導体制のあり方についてという文部科学省の専門部会のまとめより抜粋したものがございます。2枚目もそのまとめに付随するものでございます。それと茨城県におけます外国語教育の今後の実施スケジュールと県の活動事業についての写しでございます。その後、茨城県内の主な県の事業等を利用した、または各市町村で独自のということで、先進地的なもの。水戸市のもの、それから笠間市、日立市の取り組みについて参考として付けております。あと浅野委員より、また沖縄県のものを参考事例として、また福岡県の吉富町の、こういう取り組みをしておりますよ、という資料をつけており

ます。資料を全て朗読しますと時間も経過してしますので、その中からご報告したいと思えます。まず、今回提案しました美浦村立小中学校の外国語教育の充実については、次世代の学校指導体制のあり方について文部科学省の専門部会による最終まとめや新学習指導要領等に記述されている外国語教育、専科指導の充実、指導体制、小学校における外国語活動などに注視したところでございます。外国語教育の現状でございますけれども、平成23年度から実施された学習指導要領において、小学校で新たに外国語活動が加えられ、茨城県では先行して平成21年度から実施しているところでございます。小学校5・6年生を対象に週1時間、外国語・英語活動を実施し、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成することとしております。平成32年度からは新しい学習指導要領に移行し、小学校5・6年生では外国語を週2時間・年間70時間、小学校3・4年生では外国語活動を週1時間・年間で35時間実施することとしております。茨城県では、平成30年度は、小学校5・6年生では外国語活動を年間50時間、小学校3・4年生では外国語活動を年間15時間実施しておりますが、平成31年度には実施を1年前倒ししまして、学習指導用指導要領通りの時間数で実施することとなりました。外国語教育実施に伴う教員の指導力向上に対する県の取り組みでございます。小学校外国語活動推進事業、小学校教員の英語力等向上研修でございます。小学校教員の発音力向上を目指し、英語発音力研修講座を行うこととなっております。二つ目としまして小学校教員の外国語教育の指導力向上でございます。小学校外国語教育指導研究推進校指定ということで、小学校14校を指定し進める事業です。2番目としまして専門指導員の推進校訪問、3番目としまして外国語教育推進リーダー教師の育成、全小学校で外国語活動を中心となって推進する教諭を指名し、模範授業の参観や研究協議への参加を促します。4番目としまして専門指導員による公開授業等の参観や研究協議への参加を促します。

続きまして小学校教員の外国語教育の指導力向上研修でございます。外国語活動教育の中核教員の養成及び中核教員による校内研修の充実を図って参ります。予定としまして、小学校教諭100名研修講師、中央研修修了者5名で行って参る予定です。続きまして小学校英語教育支援事業でございます。新学習指導要領を全面実施に向けた小学校英語教育の推進及び各小学校等への支援を目的としております。一つ目としまして実践マネジメント校を15校を指定することとなっております。内容としまして、平成30年度に5・6年生で外国語を年間70時間、公開授業を1回以上実施する学校となっております。二つ目としまして、小学校英語教育専属指導主事、義務教育課等による実践、マネジメント校への訪問指導及び英語の教科化等に向けた実践モデルの推進でございます。三つ目で実践マネジメント校における取り組みを公開し、学校規模等といった異なる実態において効果的に英語教育を進めるマネジメントモデルを県内小学校間で共有することを目的としております。3番目としまして、本日の意見交換といいますか、外国語教育を充実させるため

の検討事項ということで上げさせていただきました。小学校における平成32年度から5・6年生では外国語の教科化、3・4年生は外国語活動が完全実施されることに伴い、外国語教育のさらなる充実を図るため、以下の方法が考えられるところでございます。なお実施に当たっては、予算及び人員の確保などの課題があるかと思っております。1番としまして研修の充実、外国語教育専科となることに伴い、外国語を指導する担当教諭の現職教育を充実させ、指導力の向上を図るため研修のさらなる充実。2、外国語の時間増への対応、全時間へのALTの配置。3、幼保へのALT派遣の継続、吸収力旺盛な幼少時期の教育の充実を図るものです。4、英語ボランティアの募集、地域人材の活用、また地域に開かれた教育課程を目指すものです。5、外国語を教育専科とする教諭または外国語教育専任非常勤講師の採用。一つとして指導レベルの向上、二つ目として現職教員の指導力の向上、三つ目として担任教師の負担軽減が図られるのではというところでございます。以上現状等と県の取り組み、また考えられるといたしますか、検討事項でございます。

他にもいろいろなことが考えられるかと思えます。ご意見ご協議よろしくお願ひしたいと思えます。以上でございます。

○中島村長

はい、すいません。いつもマイク持って話してる時が少ないもので。今、次長のほうからそれぞれ取り組みの話がありましたけれども、美浦の中で、特に教師の資格はなくても、英語を母国語として話せるぐらいの人は、これ情報持ってないとわからないんですけども、そういう方は、いらっしゃるのかな。幼稚園・保育所で子どもを預かる時に、そういう外国の方の子どもさんを預かるっていうこともあるんですか。

○坂本園長

はい美浦幼稚園です。幼稚園の場合、ここしばらく外国人の方のお子さんをお預かりしたことはないですね。私10年ほど前ですか、ちょっと一人いらっしゃいますけど、結構お父さんもお母さんも日本語が上手で、という方はいらっしゃいました。このところ幼稚園のほうではお預かりはしておりません、現状では。

○保科所長

大谷保育所です。大谷保育所では、おばあちゃんがタイの方がおります。あとは、やっぱり中国の方もおります。あと、今、ALTの先生が毎週木曜日に来てくださってるんですけども、玄関で保護者を迎えてくださっているときに、日本人のお母さんなんですけども、英会話を楽しんでいる姿がちょっと見受けられます。

○永井所長

木原保育所です。木原保育所も今現在、外国のお母さんはいらっしゃらないんですけども、過去にはやはりタイとかフィリピンとかそちらのお母さん。あとはブラジル。かつて美浦幼稚園に勤務していたときにはオーストラリアの、お父さんもお母さんもほんとうにオーストラリアの方で。私が一生懸命伝えても、後で英語のわかる人に、どのくらい私の内容が伝わっていましたかと聞いたら、半分も伝わっていないけれども、一所懸命説明しているから分かったようなふりをしていて、というような例はありました。以上です。

○中島村長

お子さんを預かるということで、外国人の方も同じ日本の中に入れば、そういう教育環境は一緒だと思うんです。オーストラリアとかアメリカ、特にイギリスとオーストラリアは同じ、アメリカ英語とはまた違うんですよね。本場のイギリスの英語がそのまま伝わったということなんです。今、ほぼ日本人以外の外国の方は、多分日本に来るのにはほぼ英語をマスターしないと来られないのかなというふうには思うんですが、結構、東南アジアでも英語が多彩なところがたくさんあると思います。フィリピンは英語圏なので、英語が堪能ということもありますんで、その方を採用しているのが先ほど言った境町のほうがそれを採用しているという。今日は教育委員の山崎先生ほか3人おりますので、先生経験の山崎先生のほうでも、そういう英語を教えられる後輩、先輩でもいいですけども、居たらちょっと情報がありましたらお願いしたいんですが。

○山崎委員

実際に勤めているときは、いろんな学校勤めてましたけれども、英語、ポルトガル語、ブラジルの方は。そのときは大分苦労しましたが、英語の場合には、英語が堪能な先生がおりました。そのときは小学校で、英語の免許を持つてる人が3人くらい勤めていました。そのときに、アメリカの教育関係の約40名ぐらい引き受けて一日くらい、教育使節団っていうか、その方が来て一日、朝の登校から下校まで、そして交換会っていいですか、教員との意見交換会みたいなことまでやっておりました。子どもの中でも、やはり外国から帰ってくる、来たって子どもがおまして、英語が堪能でない先生の通訳係みたいなこともやってる子もおりました。先ほどのスペイン系なんですけれども、ペルーですか。これもやはり親御さんはしゃべりませんが、子どもが両方しゃべるので、小学校4年生ぐらいが通訳をやってました。ですからそういう関係で、子どもの方は早く慣れてきます。ただ慣れるときに、ある程度の手だてが必要だということがあります。その手だてをどうするかっていうことが一番、子どもを受け入れたときに日本語に入っていく、そして両方ができるような形でやっていて、いつ生かせるように、子どもを生かしていくような形みたいなことでいくっていうのも大事だと思います。あと教員の中にも、やはり英語

の免許を持っていて小学校に来てるといふ先生もいます。あと、英語が趣味だといふ、免許を持ってなくても趣味だといふ先生もいます。そこらのところを発掘して、その先生方が、多分、各学校の指導者みたいな形になっていると思うんですが。及川先生、そうじゃありませんか。1人ぐらいいはいるでしょう。

○及川室長

美浦村でも小学校に英語免許を持っている教員はおります。木原小にも1人おりました。たしか大谷小にも、教務主任が英語免許で今勤務しております。

○山崎委員

その先生方が、いわゆる先生方の核になっていって、そこで研修等を開いていって、先生方自身が英語に慣れるということが大事だと思う。英語を学ぶというより英語に慣れて行って、一緒になって、子どもと一緒にやれるというその気持ちを持ってやっていって次の段階に行くのではないかなというふうに思います。昔から英語は習うより慣れろという言葉がありますね。ですから、それにいかにALTを活用しながら、そしてその先生方がALTと一緒にできるようにして、ほかの先生方が、堪能でない先生方も、いわゆるその雰囲気にならなくてやっていると。そういうようなことが子どもにとっては非常に大事なことだと思います。その中で、今度はできる子どもはいると思いますので、その子どもたちを活用しながら、雰囲気を盛り上げていく。というような形で充実させるためにどうしたらいいかといった場合に、やはり、中学校に行って英語が点数で扱われるようになったときに嫌にならないような、そのような小学校の段階での教育が大事なんじゃないかなと思います。子どもたちがより広く、より深く、英語に携われるようにするにはどうしたらいいかっていうのは、本当の課題じゃないかなというふうに思っています。以上です。

○中島村長

はい、山崎教育委員の方からのお話で、村内の小学校でも英語の教師の資格を持っている先生がいますということなんで、幾らか安心するところはあるんですが、学校の中の配置もございまして、その辺は学校教育課、教育長の方でどうするかは、この後ね、いろんな情報で、ALTの方が配置できるかどうかも含めて。浅野教育委員のネットワークではどういう情報があるか、ちょっと教えていただければと思います。

○浅野委員

私のネットワークでは…。英語に関してちょっと話させていただくと、私たちが英語学んだ頃っていうのは、本当に中学校から一から学んで、でも週6日、週6回英語があつて、本当に口写しでね。勉強した結果、普通に最低限のことは身につけて行ったわけですから

ども。それが週3時間になったりする時代を経て、今こうして小学校に英語を取り組むって。申し訳ないんですけど、どうしてこんなに遅れちゃったんだろう日本はって、私はそんなふうな気持ちで残念でならないんですけども。先ほどからちょっとご紹介させていただいた教育ルネッサンスというこの新聞記事なんですけれども、これとても古くて2014年ですか、4年前なんですけれども、市町村でむしろ取り組みが先だって報じられて、この人口7000人の町でも英語ふれあい事業っていうこと始められたってというような記事で、大分前に私もこれを見たんですけれども、下のほうに小学生が英語以外禁止の3日間のキャンプね。そういったことが、即、即効果があらわれる事業じゃないのかなっていうふうに私は思います。もちろんALTの先生が、週1回週2回来てくださることも勿論ありますけれども、慣れるって、とにかく話したい、慣れたっていう楽しく、そういうことを垣根をとるっていう意味でいえば、本当に小学生からそういった体験をすることで、自分ももっと学ぼうという気持ちが芽生えれば、あらゆるものがね、情報がそろっている今の社会できっかけができれば、子どもさんは自ら進んで学んでいくと思うので。先生方にご負担をもちろん掛けることもあれなんですけども、村の取り組みとしてそういったことができれば、すごく効果が上がるんじゃないかなあということをお私に思います。もう一つ、ちょっとお聞きしたいのは、例えば「ジョイナスみほ」さんっていうね、体操で幼稚園の方にご指導に行ってくださいってるんですけれども、そういった形で、民間の英語塾とか、そういった民間を投入するようなことは、予算的にどっちが上なのか私は素人なのでわかりませんが、もしそういうことができれば先生のご負担を軽くして、むしろそういった美浦で英語塾をやってる方いらっしゃいますので、そういう方に来ていただくとか、そういったことは柔軟にできないものだろうかというふうに考え、感じてるんですけども、いかがでしょうか。

○中島村長

そうですね、垣根を作らないで、垣根を超えていろんな指導方法ができれば。ただ学校という一つの垣根があるんで、その中に担任の先生もいるでしょうし、その担任の枠を超えてというふうなことになる、学校のまとめがなかなか難しくなる部分も確かにあるのかもしれないですけども、やはりこれを導入するという、茨城県はもう31年から導入するという事なので、まずは学校の先生方にとっての垣根を取り払う、寛容になってもらって、まずは、ある程度高学年なるとなかなか入りにくいけれども、低学年だとずっと入れる部分をうまく活用してもらおうと、外国語に違和感を感じないで子どもたちが入れるのかなと思うので。今日は栗山教育委員もおりますので、一応栗山教育委員は保護者の今ちょうど真っ只中の部分におりますので、教育委員として、また、保護者から見たこの取り組みとして、またネットワークでそういう外国語をやれるいろんな団体とか、そういうところがあれば、栗山委員のほうからもお聞きをしたいなと思います。お願いします。

○栗山委員

はい。まず先ほど浅野委員のお話と同感で、外国語教育だけじゃないと思うんですけども、やはり経済的見地から言って、また外国語が入ってくるとなると、コストの面とかでかかってくると思うんですけども、そういった場合に、一番、ちょっと語弊があるかも知れませんが、投資として考えると、やっぱり就学前というか幼児教育に重点を置くべきかなと思って。それはなぜかっていうと、費用対効果の大きさとか、やっぱり子どもの頃に、私もやっぱり中学校から英語を習って、そこからだちょっとこう勉強っていうスタンスで入るので、なかなか好き嫌いであったり、覚えたりっていうところが多かったりすると、英語に触れあうことの距離感ができてしまったりするので。本当に小さいときから、うちの子どもたちも民間のプログラムですけれども、やっぱり2泊3日で夏と冬にキャンプに行っているんですけど、本当に英語が楽しいというより、いろんな外国人の方と話したり、新しい友達をつくったりっていうのが楽しいと思うんですけども、多分そういうのを通して勉強じゃないところから、英語と触れ合う機会があるといいのかなと思いますし、多分美浦村としても、ちょっとまた別の話ですけども、保護者の目線から見ても、例えば幼児教育もしくはその接続期の幼保・小学校っていうところの段階で、そういった英語の教育が充実されていると、魅力的な新しい教育をされているんだっていう見方がされるかなと思いますし、そのためには費用負担がかかってしまうんで、村長が言われるように、どういった人材を見つけてくるかっていうところだと思うんですけども、私の知る限り、住まいが布佐地区なんですけども、近所にもともと筑波の研究所で働いて木原の方と結婚されて近くに住んでる方で、やっぱりイギリスの方がいらっしゃって、個人的に英語を教えたりしてるんですけども、看板も何も出していないので、余り知られてないんですけども、話すとか挨拶したり、簡単なお話をしたりするんですけども、そういった生活の中に英語と触れ合いがあると、そこから近所の地域のつき合いとかなんかからボランティア発掘するっていうこともあったりとか、あとは企業でいうと、地元で外国の企業があるんで。この企業では結構国際会議、テレビ会議とかで英語でやられたりするんで、結構英語しゃべれる方がたくさんいらっしゃるかなと思うので、そういった人材の活用とかもできるのかなと思いますので、いろいろ発掘されていない方がまだまだいらっしゃる、もしくは民間のほんとに個人的にやっている事業の方とかも、たくさん、まだ見えてない部分でいらっしゃると思うので、そういった方たちもうまくその地域の中で取り込みながら入っていくとよろしいのかなと単純に思っています。

○中島村長

栗山委員のほうからはですね、近所にもそういうつくばの研究所関係に勤めた人が、そういう得意な部分もあるよとかね。それからいろいろと英語を使うという、地元の企業に

いる方は、多分電話で会議しても、テレビ電話でやってるんでしょうけども、これは本場の英語ができないと相手と通じませんので、そういう方が、美浦に工場があるんで、退職した人のリストとかね、そういう部分で、ある程度幼児の英語を教えるぐらいは結構簡単にそういう人たちができるといふことで、色んなところで人材の発掘の中から、美浦の中でサポートしてくれる人が出てくるというふうになれば一番いいことなんで、幼保で遊びながら英語を学ぼうよっていうところで教育長も力を入れてここ2年ぐらいですか、やってきてくれましたので、その成果も含めて、教育長の方から、どういう方向が一番、財政の部分もあるんで、一番良いのは美浦村を理解してくれてる人が、そういう教えてくれるってのが一番良いことなので、私の見解よりも教育長の見解を聞いてもらうと、そっちのほうの妥当性があるかなと思うんで一つ。

○糸賀教育長

はい、私からまず幼稚園と保育所の方にALTの先生を週1回派遣しているということで、去年と今年ということで、先だっても両保育所でも拝見しましたけれども、かなり子どもたちも、英語自体にも慣れてきているなという感触はもちました。英単語自体を知っている子もいるし、子どもによってそれぞれ、保育所であっても理解の度合いがそれぞれ差が若干あるかなというところがありますけども、押しなべて英語を楽しく学んでいる姿が見られて非常によかったかなと思っています。この結果がきちっと出るというのは、恐らく、今、英語教育が始まった子どもたちが、小学校を経て中学校、高校くらいになったときに、結果というものがわかりやすく出てくるのかなと思いますんで、今のところは地道にこの取り組みを続けていければなと思っています。ただ一方でこの資料の中にもあるんですけども、小学校で外国語活動が来年度から、県の前倒しでは対応するというところで本格化すると。それとあわせて幼稚園と保育所へのALTの派遣の回数というのを、週1回というのは堅持したいと。そうした場合に、要は予算の話になってくるところがあると思うんですよね。今、予算要求の折衝というか始まっていると思うんですけども、例えば小学校の外国語活動、外国語の教科化に対応するためのALTの派遣をこちらの要望どおり維持するというに加えて、来年度も引き続き幼稚園と保育所の両方にALTの先生を週1回派遣するといった場合に、予算的には今の、今年度の予算で可能なのか。それとも新たに積み増しをしなければいけないのか。どういう状況なのか、もし事務方で分かれば教えてもらえばと思います。

○中澤次長

はい、ただいまの先ほど申しましたALTの配置と現在の派遣継続というところに関連するのかなと思います。やはり今、予算折衝の中では、本年度並みということで、第1次ヒアリングを受けております。そうしますと、こちらの要望的には、先ほど教育長が言わ

れましたように、茨城県の方針として、来年度から小学校を前倒しで増えるわけでございます。全時間、全日へのALTの配置を要望したところ、やはり金額的に100万までいかないんですけども、当然人件費などで70から80万円ぐらい増で第1次要望出したところ、本年度並みという第1次査定で、今のところなっております。これについては学校は4月1日、実際の実務は7日か8日頃から始まるんですが、役所的には4月1日から始まりますので、今年度中に契約を結ぶのを目指しております。ですので、もう予算要求の中で、来年度なんですけど、今年度契約を結ぶ、執行するというところで、そういう手続上もかなり、この点については、ALTの派遣事業につきましては、せっぱ詰まって今交渉しているところでございます。80万ぐらいの差でございます。

○糸賀教育長

ALTの派遣については、来年度小学校ですね。小学校が特に回数を増やすに当たって、なおかつ、幼稚園・保育所のALT派遣回数も減らせないという前提でいくと、今のところはそれが担保できないという状況です。今のところ、まだ折衝の余地はあるかとは思いますが、難しい状況。そうすると、方法としては、考えられるのは、幼稚園・保育園への派遣の回数を減らすとか、そういうところに手をつけなきゃいけないということになるんですかね。

○中澤次長

はい。このまま本年と同額の予算となった場合ですと、やはり幼保小で、事務局また現場と検討をしまして、その中での割り振りになりますので、今教育長が言いましたように一つの案としては、小学校3つあります。逆に大変失礼ですけども、保育所2つ、幼稚園が1つですので、各月一ですか、減らしていただければ、小学校3つ分がいくという一つの案でございます。今後とも事務局としては、予算、もう一度折衝していくところでございます。以上です。

○糸賀教育長

もしこちらのイメージする、教育委員会事務局の方でイメージするALTの配置の人数というのは、今は中学校1人いて、小学校と幼稚園で1人、保育所で1人、計3人ですかね、ALTを派遣してもらっているのは。3人が4人にならないと間に合わないのか。それとも、3人でもコマ数減らせば十分回るぐらいの感じなんですかね、イメージとしては。もしざっくりでもわかれば。

○中澤次長

こちらの要望を今現在頼んでいる会社、その中の仕様でこういう時間数を見てくれと、

参加してくれっていうことで。または人が変わってしまうと、教え方にやはり差が出てしまいますので、例えば、どこどこ小学校には同じ人で、何コマお願いしますという仕様書の中でやります。そうすると、会社のほうでは美浦村に対して3人で回す、4人で回すっていうことになってこようかと思います。契約のところではそういう要望、仕様書のようなもので契約に持っていくわけですけど。あとは会社のほうの受け方、1人の負担がふえるかっていうところがございます。

○糸賀教育長

A L Tの人数よりも、こちらで希望する時間数にA L Tの先生が来てくれるかどうかというところなんですね。あと先ほど浅野委員からお話ありましたけど、英語塾の、例えば先生を投入と。今美浦のA L Tの先生は、違う会社から来ていると思うんですけども、例えば大手の英語塾であれば、当然ながら一定以上のスキルを持った英語の講師、先生の方に教えていただけると。そういった英語塾なりそういったところの先生方と、例えば我々も今お願いしている、あるいは他の近隣の学校でもA L Tって大体大手の2社でどちらかというふうには聞いているんですけども、これも感覚的なものしかわからないと思うんですが、例えば、スキルとしては、どんなものなのか。幼児を対象とした場合に、スキルとしては違いがあるのか、どちらが良いのか。例えば、英語塾の先生などが小学校に入ってもらおうというようなことは、イメージとして実際投入した場合どうなのかというところも必要なので、わかる範囲で教えてもらえればと思います。

○及川室長

A L Tについては、あくまでもこれは英語指導助手という形で入っていただいているので、原則的には担任が、教員免許を持っている担任が授業を行い、その助手としてA L Tがネイティブの良さを生かして、英会話の補助をしていくという形で、今やっている状況です。英語塾等を私も受講したわけでもありませんし、子どもが通ってるの見たこともないので何とも言えませんが、一般の英語塾等では、恐らく先生が主導で、学校でいけば、担任のような形で授業を行っていくということで、カリキュラムのほうを組まれていると思いますので、ちょっと学校で行っているA L Tを導入した授業等とは様子が変わっているのではないかということは予想されます。ですので、その形のまま英語塾等の先生方を学校の方に導入するということになると、若干今までの授業のあり方とは違和感があるのかなと考えます。以上です。

○浅野委員

例えばですね、我々は日本語を母国語としておりますが、日本語が上手に教えられるかというと、必ずしも上手に教えられないということと同じように、英語を母国語としてい

る方が英語を教えられるかどうかというのもまたね、必ずしも一致しないところがあります。私が先ほど提案させていただいて、提案というかこういうふうにできたらいいなと思うは、英語塾とかそのほかにもね、いろんな会社がありますけれども、スキルが一定されてるということですね。プランも教え方も当然一定化されてるので、ある意味お任せできるんで、逆に先生方がそれをこんなふうなつくりで教えるのかっていうことを学んでいただく時間に逆になったりして、そういうことがもしできればですね、どちらが費用的にはあれか分かりませんが、そういったことで、先生のご負担っていいですか、ALTとまた別な効果をできるようにしたらいんじゃないかなあというのを、ちょっと体操の例を見てるもんですから、民間だからだめっていうのではなく、何かこう生かすことができないか。美浦村でも英語塾で大変成功している方もいらっしゃるの。逆に言うと、民間の公立の学校に入れるってことは難しいのかもしれないんですけど。そんなふうに思います。

○中島村長

学校が違って、教え方が違うと思うんですが、もうスキルの全然ね、変わってしまうんで、だいたい統一した教え方をしていくということにならないと。同じALTを配置しても、学習度、習熟度が変わってきてしまうということになってしまうんで。その辺は委託先の会社から来た、また違うところからも応援やってあげますよという方がいても、教える一つの部分、同じ基本の部分にのっかってやらせてもらわないと。教え方の、独断でこういうふうに教えてもらうっていう最終的には、同じレベルで育っていかないということになりかねませんので。その辺、今、次長が来年の予算で苦労しているということがあります。結構財政、守りが固いんで、少額の金額でももう出さないと、大変ですよっていうことを訴えながらやっております。と言いつつ、いろんなところ、削るだけ削って、あとはやらないのかっていう部分ではないんで。やはり教育は10年後20年後に大きく響いてくる部分があります。そういうこともあって、ちょっと今のこの話がちょっと脱線しますが、人材育成を、中学2年生を中国から台湾の台北市とやっています、敦化中学校と。それはずっと平成3年からやってきた流れがありますので、それはもう国が変わって台湾になっても続けておりますけれども、来年からちょっと予算を組み入れまして、中学1年生を、これは北海道の浦河町、それはなぜそこかっていうときに、美浦村が馬のトレーニング・センターをやって、向こうは馬を育ててる、生産をするということで、結構JRAを通してお互いが認知されている、私も前にも行ったことあるんで、そこから子どもたちの交流をしようっていうことで、中学1年生でもそういう国内での経験ができる。ということをして2泊3日ぐらいでちょっとやりましょうっていうことで、美浦村が提案をしたら、実は同じ稲敷郡の河内町もぜひ参加させてくれということで、来年一応初年度でやるつもりでおります。それも、美浦の「浦」と河内の「河」をとって「浦河」とい

う部分と向こうの浦河町は、三町村で取り組みをするということで、予算もこちらからは河内が行くんで、予算も少し下げて今予算が組めるようになりました。これは子どもたちにいい経験をさせようということで、そういうことができてます。ぜひそういうことも踏まえて、中学1年生2年生だけじゃなくて1年生のときにもそういう体験をさせて、2年生でも今度は海外だよという部分。やはりそういう、小さいとき幼保で体験したものが、小学校でも継続して、中学校と行けば、外国語、英語で突然外国人に話かけられても、戸惑うことなく日常会話がぱっと返せるぐらいになれば、それぞれ自信を持ってできるのかなっていうふうに思います。これは、なぜそういうことを、美浦村は他所より先にやろうかと思ったのは、実は小学校4・5・6年生にタブレットを茨城県では一番早いし、全国でも早くタブレット、電子黒板を整備してできたのは美浦村だったんで、そのときの4年生の子が今ちょうど高校3年生なんです。高校で要するにICTの授業をやったときに、美浦の子どもたちは、例えば高校の情報処理科に入ってやっても、よその学校から来た子どもたちよりはもう、タブレットを使ってやってたんで、いろいろと処理も早いし、手慣れた部分で、よその市町村の子よりも、技術的にももう伸びていましたという報告をいただきました。そういうこともあって、やはり、小学4年生からそれをやった結果がやっぱり高校を出るくらいまでの間に、よそとの違いを子どもたちが自信を持ってやってくれたっていうことはうれしいことだったんで、今回の事業もALT一人増やしてでも幼稚園・保育所からやってもらって、小学校も継続して中学校まで行くと、多分、中学卒業して高校行ったときにも、聞き取り、英語を聞いても答えられるし、自分から質問することも、多分そういうものが当たり前でできる子どもに育っていくんじゃないのかなっていうふうに思っているんで。財政の方とはちょっと掛け合わなくちゃならない部分がありますけれども、でも、それ以上に教育委員の皆さんとかいろんなところから情報もらって、美浦村の英語教育に参加をしてくれる人がどれだけ出てくれるか。それも一つ民間事業者に負けないスキルを持った方がたくさんいてくれるならば1番いいことなので、その情報をいただきながら、今、ALTで来て教えてくれるっていう授業を1回見ていただきながら、ぜひ美浦の英語教育に貢献したいという人がいたときには、ご一報いただければ、次長のほうを取り計らいますんで、その辺はよろしくお願ひしたいと思います。

○山崎委員

これからのことで、そして高校でも美浦の子が非常に活躍しているという話を聞いて、多分目指していくのは、今美浦の教育で目指していくのは、間違いのないような形で目指していると思うんですね。それをより確実にするための英語教育という形になっていくと思うんですが、このときに、カリキュラムですね。どちらかって言ったALTのほうが主導のカリキュラムになっているのか。それともその中に英語の指導教諭、それぞれの各校にいる指導教諭がその中でカリキュラムをつくって、そこにALTの出番的なものをつく

っていくのか。そこのところをはっきりとさせて、カリキュラムをきちんと立てて、目標的なものを立てていく必要があるんじゃないかなってというような気がします。それはなぜかっていうと、4番の英語ボランティアの募集のところ、どうしても地域人材の活用とか、そういうあとは地域に開かれた教育課程となると、募集のときに、どの場であなたは必要なんですとか、そういうようなものをきちんと押さえておく必要があると思うんです。ここの場であればできると。6年生5年生のカリキュラムはちょっと難しいかなっていう人も、いわゆる習うより慣れるですから、その慣れる段階ってというのが多分、100%が保育園、幼稚園などですね。それがだんだん習う部分が出てくるのが小学校の高学年で、もっと習うのが必要になってくるのが中学校段階だと思いますので。その中で生かしていくために、地域のボランティアを募集して、これが美浦村だけにとどめるのか、それとも各町村、ほかのところも声かけたりなんかしてやってみるのか。これはこれからのことですが、すけれども、やはり各町村、ほかの町村のほうでどうなっているのかっていうか、近隣のほうでね。やはり見ていく必要があるんじゃないかなと思います。最後の5番のところ、専科教諭、非常勤講師の採用。これは非常にこういう予算が絡むもので、これは希望的観測で書いてあるのか。それともこの先2年後、3年後にはここに到達したいということを入れてあるのか。やはりこれを入れておくためには、やはりその前の段階のいわゆる最終カリキュラム、これをきちんと押さえて行って、そこのところに、美浦の中の段階的指導みたいな形でこうなりますよというようなことで、先生方のレベルアップと、もちろんALTとの話し合いもありますけど、その前の指導教諭のレベルアップ、で一般教諭のレベルアップ、それを図っていく必要が出てくるんじゃないか。核になるのは何となくこのカリキュラムだと思うんですが。制定においてより良い方向に進めるように、そのように舵取りができればなというふうに考えています。以上です。

○及川室長

今山崎教育委員のほうからいろいろな面でお話あったんですけども、現状の小学校の外国語教育に携わっている教員については、教員養成の課程で、英語教育をどうするべきかというものは、小学校教員の場合、行われてないっていうものもあります。その中で文科省が外国語教育というものを打ち出してきて、それを現場で引き受けるという形で対応しているところでもあります。そこで各種研修、県の方で行いまして、教員の英語力向上、英語の指導力の向上を目指すということをやっています。はっきり申しまして、今のところALTに頼って授業をやるという部分が非常に多いという状況があります。カリキュラムについても、文科省が出してきた英語のテキストブックのほうを活用して、それに則って授業を進めていく形になっておりまして、それをALTとともに進めていくという形でやっています。本来であれば、しっかりとした担任主導のカリキュラム授業のやり方を組んで、そして英語指導助手であるALTを活用しながら、会話のあり方とか受け答えの仕方

とか、そういうものやっけていくべきものであることは確かです。ですので、先ほど話が
あったように、教員主体のカリキュラム指導方法をしっかりと教員が身につけて、そうい
う状況の中でボランティアを募集する。資料の方にもある、日立の方で出している資料、
ボランティアの募集の資料があるんですけども、こちらのほうにも申し込み要件として、
小学校で英語を教えることに興味のある方で英検2級以上もしくは海外での生活経験など
があり、十分な英語力のある方としてあって、内容としては、小学校担任の先生との英語
の授業の実施ということで、あくまでもやはり小学校教員が授業を行う中で、その補助と
いう形で入ってもらいたい。ボランティアとして入ってもらいたいというような形で募集
してるわけです。やはり授業を主導する担任教師の力の、指導力の向上、英語力の向上と
いうのは必須条件になるのではないのかなと考えています。これから、文科省の方で教員
免許状の取得要件とか大学の養成のあり方なども変わってくると思いますので、英語教育、
外国語教育については徐々に先生のレベルアップが図れていくのではないのかなと考えて
おります。以上です。

○山崎委員

多分私はそういうふうに予想はしていたんですが。ずっとALTの授業っていうか、英
語教育をずっとやっているわけですよ。その積み重ねは確実にあると思うんです。その
確実にあるものをほじくり返すっていうか、もう一度見直して、そしてそれからいわゆる年
次計画みたいなものをつくっていくっていうような、そういうような段階を踏んでいかな
いと。ALTを頼んだはいいけれども、先生方が育たないでALT主導の授業になってしま
う。これはずっと多分、こうならないためにはどうしたらいいかっていうことを、それ
ぞれが考えていかなきゃならない時期なんじゃないかなと。このボランティアの募集にお
いても、これは本当のボランティアなのか。それとも、もう一度授業の中に生かしていく
ので少し講師扱いみたいな形でいくのか。そういうふうなところでもやはり、話し合いが
必要なんじゃないかなと。意味はわかりますね。有料ボランティアっていう形をとって
いくのか、それとも無償でお願いできれば無償でやってもらいたいというような形で
いくのか方向性。そういうのもやはりきちんと押さえていかないと。やはり子どもたちが、保
育園とか幼稚園からALTが入ってやってもらったときに、そのときに入ってもらって、先
生方とプラスボランティアの方に入ってもらって、実際に動いてもらったときに、中身は
どうで、そしてあなたはこういうふうな形でいきますよっていうようなことをきちんと押
さえる。そういうようなシステムづくりみたいなものもこれから必要なんじゃないかな
っていう気がします。それが無いとお願いしますで頼みっ放しになっちゃうので、それでは
まずいと思いますので。きちんと先ほど言ったようなカリキュラムも、やはり今までのや
つを見直してみんなで話し合っつけていくみたいな。最終的には年次計画プラス学級、
学期ごと。そして最終的には時間の計画みたいになるんですが、そこまでは必要ないと思

いますけれども、このとき1学期はできればここらまでで中身はこういうもの。そういうものをやはり話し合って、そして実際の英語教育を迎える時期になってきてるんじゃないかなと思いますので、そこらもちょっと関係者等で話を、時間等をつくって行って、次長にはそれに予算をつけてもらう。そういう形にしてもらえれば非常にありがたい。やはり保育園も幼稚園も子どもたちが最初から英語に慣れると、というようなことで楽しい英語の時間を進められるようにして行ってもらえればと思います。以上です。

○中島村長

はい。いろいろ意見をいただきましたけれども、無償でノーギャラのボランティアっていうわけにはいきません。これはね、教える方も責任を持つということを考えれば、当然有償ボランティア、ボランティアであっても有償しかないですね。やはりそこでないと責任っていうね、私は無報酬でやってるんだっていうことになると、また意味が違いますので。予算はつけないと。労働の対価が出てこないと責任を持ちませんので。そこはぜひ。金額は折り合いがないとやっていただけませんので、折り合いがつくぐらいの金額でやってもらうということでいくしかないのかなというふうに思います。いろんな人材がたくさん、それぞれの皆さんからいただきましたけれども、小学校にも先生が、もう教えるだけの先生がいるということで、その中の時間的な配置または国が小学校でも導入することになれば、当然先生の立場もね、英語を専門に教えることができる人は、そこに配置も必要になってくるのかなというふうには思いますから、その辺茨城県はいち早くどういうふうな体制で。これは補助的には来ないんでしょ、わかりませんが。どうなんですか次長。

○中澤次長

教育の方針ということで、それに対する予算というのはちょっと見当たらなかったところでございます。

○中島村長

国はね、32年からやるって言って、茨城県は一年前倒しでやるって言った折に、かけ声だけで何もしないっていうのは、そこは本来だと50%出すとかね、今年は要するに先駆けて茨城県はやるから、その必要な部分は県が持ちますとかね。そこらをやっていたらね、次長も悩まないで財政のほうと折衝しなくて済むということにもなると思いますので。ぜひいろんな情報をいただいた中で、金額的な部分で折り合いがつく方が、その教え方は統一された中で、ボランティア、有償ボランティア的に教えてくれる方がいれば、情報はもらっておいて、こちらから集めて、来年4月からそれが可能かどうかは村内の中でも、まずできるかできないか。できなければ、やはり現在契約している会社の方に、

コマ数をふやして人員も増やすという方向でいかないと、取り組みができなくなってしまうかなというふうに思いますので、情報をぜひいただきながら、退職した人でも十分いいのかなというふうに思います。ぜひ他所が動き終わった後じゃなくて、美浦村が先に動くということで良い人材が集められるかも知れませんが、やっぱり早く動くべきだろうというふうに思います。その辺も、次長大変でしょうけども、来年の予算をにらみながら、人員の確保も触手を伸ばしてお願いをしたいなというふうに思います。教育長のほうから何か良い案があれば。

○糸賀教育長

今日の資料の中のこの5番目の外国語教育、専科教諭または外国語教育専任非常勤講師の採用という項目であります。これは、あくまで位置づけとしては、こういったことも考えられるよという頭の体操的な感じですか、実際にはできないのかなと私は考えております。というのは、まず村で外国語専科の教諭なりを採用することとなると、まず採用してからその方がどのくらいの力量が実際あるのかっていうのを見極めた時に、こちらの要求するところに満たない可能性もあるのは非常にそういったまず一つリスクがあるっていうこと。あと、他への異動が、村内だけの異動になりますんで、いわゆる県費の小中学校の先生のように、県南教育事務所管内なりへの異動というのがまずなくなるわけで、非常に処遇としても難しいところが出てくるのかなっていうところを考えております。なおかつ今の時代、非常に英語の先生方引っ張りだこでありまして、美浦村が自治体として十分に、スキルを満たした上でやっていただけるような良い先生をスカウトできるかっていうところも、ちょっと今の時代難しい面も今あるのかなと、現実問題としてはどうかかと考えます。ですからこれ将来的な話で、先ほど山崎先生も若干お話しされましたけれども、ボランティアの話とも絡んで、村だけではなくて例えば、県南地域の自治体間で広域で採用して、その中でまた異動していくという形の仕組みが将来できれば、これ非常に可能性としてはあるのかなと思っております。今のところはこの5番目の項目についてはちょっと。予算面から、あとは人材の確保の面の両方。あとは人事を含めた将来の処遇含めてですね、ちょっと今のところこれは難しいのかなというところがありますんで。今日上げさせていただいている中では1から4ですね。こちらをきっちり、今あるものを確実に延ばしていくような形でやって行ければ、先ずはそこで現実を考えると。そこが今1番の落としどころと言いますか、やれる範囲なのかなという印象を持っております。

○浅野委員

もしそのボランティアということを考えてときにですね、あくまでも学校が主で、補助ですということで募集するところは、はっきりわかるような募集の仕方がいいんじゃないかなと。この要綱みたいに、英検2級以上で十分な英語力のある方って言われて、これ誰

も手を上げないかもしれないですよ。そういったことで、あくまでも補助ですっていうことをお願いするような募集の仕方が必要かなというふうに思いましたので。よろしくお願いいたします。

○中島村長

いろいろ意見出ましたけど、幼稚園と保育所のほうは、要望的にはどうですか。

○坂本園長

はい。幼稚園のほう、子どもたち大変とにかく英語を楽しんでおります。その覚えるとか、どうしても私たちが変に固く、文法覚えなければ、こんなこと覚えなければというのは全然なく、とにかく楽しんでます。これが一番いいのかなと思ってます。違和感なく先生、先生と、自然に話かけてきます。一緒に英語の歌うたいます。英語でゲームも自然にやります。身振り手振り、一緒にゲームやる中で自然に、じゃんけんであるとかワンツースリーであるとかなどが身につけてきました。それを見ていたときに、幼稚園の3歳4歳5歳、この学年の子どものたちはこういうふうに、とにかく楽しんで違和感なく、先生と接する中で、英語という意識よりは言葉、コミュニケーションの一つの方法として楽しんで、自分の中に、こういうものがあるんだなって入るのが一番なのかなと思って毎週見えています。なので、今6クラスありまして各クラス30分ずつ、クラスごとでやっております。やっぱり集中時間がそのくらいなんです。年齢が小さいので。そこは先生もやっぱり初めてなので、分かんなかったんですよ。小っちゃい子の集中時間とか。どの程度かと。何年かやっぱり先ほどの話じゃないですけども、初めてではなく、やっぱりやっけていく中で先生も、今の子どもたちこうなんだなっていう。それから結構歌なんかを自然に、CDかけて歌うとか。そういうコツとか、子どもたちに対するアプローチがすごく上手になってうて、そういう先生との関係もできているのかなと。この時間は非常に貴重だし、また私たちではできないことを先生はしてくれているなど。私たちの役目としてはその雰囲気づくりと先生との間に立って、やっぱり今度行っちゃった後も、今日歌った歌をもう一回歌おうねとか、カードを随分部屋の中にも貼るんですけども、それでこの次来たときまた、先生と色なんか当てっこしたりとか、自然なかかわり。こういうことで、幼稚園は努めています。だから本当に子どもたち楽しんでほしいな、これが要望です。

○保科所長

大谷保育所です。保育所はおととしまではA先生にお世話になっていたんですけども、去年からB先生にかわりまして。やっぱり最初は、ちょっと高度かななところを正直感じました。全て英語で話されて、余り日本を使わずに、どうなのかなというところも、担任も戸惑いがあったんですけども、やはりその繰り返しという中で子どもたちが身につ

けていく。やっぱり保育所も、0歳からはいるんですけども、ALTの授業を受けているのは3・4・5歳児で、3歳児もやはり4月はちょっと落ちつかないので。うちのほうは今年人数も20名いましたので。3歳は、前半は15分ずつ2交替でレッスンを受けて、4・5歳は30分30分っていう形でやって、2学期の後半になってから3歳児も一緒に30分っていう形になりました。リズムがあって、目から耳から入るところで、すごく自然に子どもたちも、最初の姿を見るとちょっと3歳児なんかは特にちょっと難しいのかなっていうところはあったんですけど、今の時期に来るとすごくスムーズに、会話まではいかないのかもしれないですけども、英語で質問されたことに対して、間違っている子もいますけどもそれなりに答えてる。朝も先生が玄関に来たときにいると、自分から「グッド・モーニング」と挨拶をしてくれる子もいますし、3歳児も、うちの方は毎週木曜日なんですけども、木曜日じゃない日に、「今日はハローいないねえ」なんて言いながら、朝来て、すごく先生に親しんで、一日、夕方まで居てくださいますので、食事と一緒にとったり。レッスンのあと、外で一緒にボールを蹴って遊んでいただいたりと、そういうコミュニケーションもとりながら自然に英語力も付くのかなと見させていただいています。

○永井所長

私は、保育所は、幼児教育は遊びが中心ですので、小学校や中学校と違って授業ということではなく、もう日常の遊びの中で、本当に過程で英語が身につくみたいな、遊びが中心ですので、やはり苦手意識をつけないで、学校に、何て言うんですか、送れたらいいなという思いがあります。とにかく、やはり、英語、苦手という意識がなく、幼児期に英語に親しむということが経験できているといいなと思って取り組んでいます。それで、今の先生は、お母さんでもありますので、子どもたちの性格まで、一日居てくださるので、子どもの理解度までちょっと細かくわかってくださっていますので、英語レッスンの状況なんかを見ても、分かんなかったら、ちょっと手助けしてくれるとか、そういうのが違うかなって思います。それで、その前には一月に一回来てくださる男の方がいたんですけども、本当にその時間だけぱっと来て、英語のレッスンをして、また今度は小学校に行きますっていう感じでぱっといなくなる。やはりそういう感じよりは、今ほんとに居てくださるっていう感じのほうが子どもたちにはすごくいいし、やっぱりご飯と一緒に食べるとか。それで今英語塾とかもあってそれもいいと思うんですけど、幼児期こそ外国の人と接する。英語の上手な日本人ではなくて、やはり外国の人と接して、その方にも物怖じせず会話ができるっていうのを、幼児期に育てていけたらいいのかなって思っています。はい。以上です。

○中澤次長

はい。先ずはその派遣会社といますか、そういうところが今後の、今の時期となって

は、今後の課題かなと感じます。実際のところ言われますと、先ほど申しましたとおり、新年度予算ではございますけども、特殊な予算で、今年度中に、もうやるしかないということで、もうせっぱ詰まってんのも事実です。第1回目の査定で先ほど切られましたという話。現年度、今年度と同じ同額は、ということではなっております。この後、今日の会議からも命令が出たという内容で折衝したいと思っておりますけども、これは、ただもう来週から12月です。12月の議会にこれ乗ってくる特殊予算なもんですから、早急にまた交渉していききたいと思っております。確約はちょっと自信ないんで。まだ頑張ります。

○中島村長

今日の会議は一応3時までには終わらなさいということで。あと1分あるか、30秒かな。現場のほうの意見また教育委員さんのほうからの意見、そして次長も決意を持って臨むということで、今回の教育会議まとめさせてもらうということで。次長は財政に引かないで突き進むという話が出ましたので。その辺も含めて、教育は、幼児教育はほんとに10年20年先が問われる問題なんで、その辺を底辺をがっちり、これから育ていく子どもたちのためには、教育委員さんはじめ、教育関係者は何としてでも成し遂げるという決意を持って、できるようにしていきたいというふうに思います。今日は有意義な総合教育会議ができたというふうに思っておりますので、自信をもって美浦村の子どもたちの教育に皆さん一緒に取り組んでいきたいと思っておりますので、よろしく願いをいたします。

○山口課長

はい、その他で何かございますでしょうか。

長時間にわたりましてご協議いただきましてありがとうございます。この会議は必要に応じて、開催できることになっておりますので、また必要がございましたら、開催していきたいと思っておりますので、よろしく願いしたいと思っております。

それでは以上をもちまして、平成30年度第1回美浦村総合教育会議を閉会とさせていただきます。ありがとうございます。

午後3時3分閉会